

## 柴田社長 2010年の御挨拶



柴田社長

2010年に入り一月以上経っております。厳しい経済状況の中、製造業は二番底を心配しながらも、ある程度の操業率の回復がみられておりますが、まだまだ設備投資が回復するような状況とはなっていません。

このような状況下で、MESCO 2009年度決算も何とか黒字を維持しようと懸命に努力を続けております。景気の影響を大きく受けたエンジニアリング事業の落ち込みを何とかパイプ事業の黒字で取り戻そうと努力中です。

幸いエンジニアリング事業においても具体的な見積案件が昨年度に比べ相当増加しており2010年度に向け、改善の兆しが見えてきました。安全・品質・価格・納期を厳守し、顧客満足を目指し社員一同、懸命の努力をしたいと考えておりますので、今後ともお客様の一層のご指導、ご鞭撻をお願い致します。

代表取締役社長 柴田 啓



### 東京スカイツリー建設のアリーナ席

関東地方の地上波デジタル放送の送信性向上のほか、災害時の防災機能タワーとしても期待されて建設が進められている世界最高峰の自立式電波塔“東京スカイツリー” (2/24現在303m/完成高さ634m)はMESCO本社のほぼ真北に位置し、その圧倒的な高さのタワー建設風景は、来客者の目を楽しませてくれています。



お近くにお越しの際は、是非MESCOにお立ち寄り下さい。

### あとがき

最近時間の経つのが早くなりました。一日一日はそれなりの時間を感じます。ところが一週間が終わってみると、あっという間に終わっているのです。厳しかった09年が明けて、もう一月が終わってしまいました。早すぎて、なんとなく不安も感じます。脳の中で記憶をつかさどる海馬に問題があるのかもしれない。今日は昨日の繰り返しで、海馬に届く刺激が少なくなっているのかもしれない。これが老化でしょうか。年を取ると時間の経つのが早くなるといいます。これからは、一日一日を大切に、二月と三月が、あっという間にならないようにしようと思います。予算では、まだ二ヶ月残っています。最悪の09年度の最後の踏ん張りどころです。

国内営業部 部長 南 秀男

# MESCO

## Engineering Quarterly

2010年 2月 Vol.47

海外営業部

中国株洲亜鉛製錬所向け 剥取機/アノード洗浄矯正機が性能運転試験合格

MESCO 海外営業部が 2007 年度に受注し、神岡支店の全面的協力の下に、現地据付 & 試運転を実施していた亜鉛剥取機(2台)とアノード洗浄矯正機(1台)が 09年10月9日に性能運転試験に無事合格し、引渡しを完了致しました。

本設備は、亜鉛の生産能力が年間35万tonの既存工場に隣接して建設された年間10万tonの生産能力を持つ新工場用として使用されるものです。

既存工場では1枚当りのサイズ1.13平方メートルのカソードの剥取り及びアノードの洗浄・矯正を全て人力にて作業しています。新工場では、カソードサイズを2.6平方メートルに大型化した上で自動化された機械として設置したことから、重労働から開放され効率良く操業が出来るようになったと喜ばれています。

今後もMESCOは提案営業を通じて、工場の近代化を提案していきます。



株洲亜鉛精錬所(中国)の亜鉛剥取

Engineering  
Quarterly

明日を担う技術のMESCO

## 三井金属エンジニアリング株式会社

本 社 〒130-8531 東京都墨田区錦糸 3-2-1 7階 Tel 03(5610)7831 Fax 03(5610)7861  
 国内営業部 〒130-8531 東京都墨田区錦糸 3-2-1 7階 Tel 03(5610)7840 Fax 03(5610)7863  
 東京支店 〒273-0024 千葉県船橋市海神町南 1-1667-1 Tel 047(432)0131(代表) Fax 047(432)0127  
 東北支店 〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字浜名谷地 76 Tel 0178(28)2041(代表) Fax 0178(28)5251  
 神岡支店 〒506-1114 岐阜県飛騨市神岡町鹿間 1-1 Tel 0578(82)3539 Fax 0578(83)2862  
 九州支店 〒836-0817 福岡県大牟田市浅牟田町 3-1 Tel 0944(57)3190 Fax 0944(54)5539

平成22年 2月24日 発行 Vol.47  
 発行責任者 国内営業部長 南 秀男  
 (minami@mesco.co.jp)  
 発行担当者 国内営業部 加藤 健三  
 (katou\_ke@mesco.co.jp)

## 高圧ガス保安協会会長より「保安功績者」受賞

**MESCO** 東北支店は昭和52年8月に「高圧ガス保安協会認定検査会社」としての資格取得以来、液化石油ガスプラント設備の保安検査工事に関わる保守検査事業の実績を重ねてきております。

この度、**MESCO** 東北支店の日ヶ久保主任が、去る10月23日東京で開催された「高圧ガス保安協会全国大会」において、長年に渡る高圧ガスプラント検査工事の責任者として、高圧ガス製造事業所の保守・保安検査に努めることで、高圧ガス保安に対する多大な貢献が認められ、高圧ガス保安協会会長より「保安功績者」受賞の栄を賜りました。



高圧ガス製造事業所

日ヶ久保主任は32年来、検査員または検査工事責任者として保安意識と検査技術の向上に注力するとともに実績を積み重ね、高圧ガス製造事業所の方々より多大な信頼を得てきました。

**MESCO** 東北支店は、今後も検査員の拡充を図りながら保安と検査技術の研鑽に努め、顧客である高圧ガス製造事業者の要求に応えていきます。

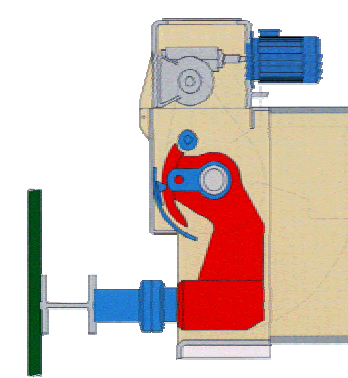


高圧ガス保安協会会長より「保安功績者」受賞の様

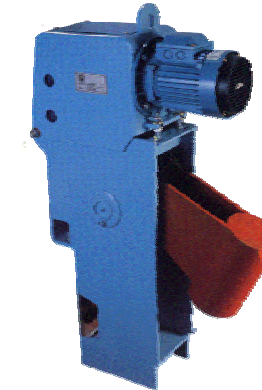
豊富な経験で最新技術を担う **MESCO**

## FOSTER WHEELER 社のスプリングハンマ、国内納入実績700台超

FOSTER WHEELER 社の廃熱ボイラは、下図に示すスプリングハンマによってボイラチューブを叩いてダストを落とすことを特徴とするボイラで、ダストの多い産業炉の廃熱ボイラに世界中で使用されています。特に、腐食性が高く融着性のあるダストの非鉄製錬では、数多くの実績を有しています。



スプリングハンマ構造図



スプリングハンマの写真

**MESCO** は、1994年に、日比製煉所のボイラのFW製への改造工事を始め、多くのボイラの改造を行いお客様のボイラトラブルの解消に貢献してまいりました。今日では非鉄製錬だけでなく、ASR(自動車シュレッダダスト)などで高温化してきた産業廃棄物焼却炉や溶融炉のボイラ改善も行っています。2003年には、正式にFW社の廃熱ボイラの日本代理店として契約を行い、現在では、**MESCO** 商品として重要なものとなっています。この15年間に、銅製錬6製錬所、亜鉛製錬2製錬所、産業廃棄物4工場にて改造工事をを行い、国内でのスプリングハンマの納入実績は700台を越え得ました。この**MESCO** Engineering Quarterly でも数回取り上げておりますが、いくつか事例を紹介いたします。

## 1) A社廃棄物溶融炉廃熱ボイラ

K社製の廃熱ボイラを使用しておりましたが年々処理量が増加するに伴い、ボイラのダスト負荷も高く、また、重金属の溶融塩が水管に付着し1ヶ月の連続操業もままなりません。数年計画でボイラの水管をFW製の懸架式水管に交換し、スプリングハンマでダストを落とすように改造を行いました。現在では定修の間隔である6ヶ月を全くのメンテナンスなしで操業できるようになり、感謝いただきました。

## 2) B社製錬炉廃熱ボイラ

N社製ボイラ水管にダストが多量に付着しダスト落とし作業が大変なことで、ボイラ出口温度が高くなり所定の処理量が達成できない状態でした。**MESCO** とFW社は、ボイラ内部のガスの流れのシミュレーション解析を行い、輻射部の空間に水管でできたバブルプレートを設置し、輻射部での熱交換の改善と輻射部でのダスト除去率を改善し、ボイラの能力を改善いたしました。

技術ノウハウを盛り込みお客様に満足のいくボイラ改善をご提供することができました。

## 3) C社製錬炉ダクト

精錬炉のガスダクトがダストで閉塞するとのことで、ダクトにスプリングハンマを取り付け、ダストトラブルを解消しました。

**MESCO** はFW社の代理店としてだけでなくFW社の技術パートナーとして、**MESCO** の技術ノウハウを盛り込み、お客様に満足のいくボイラ改善をご提供していきます。



改善のためにスプリングハンマを取付けた例